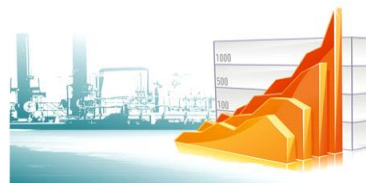


ぎふ経済レポート



令和元年7月分
岐阜県商工労働部

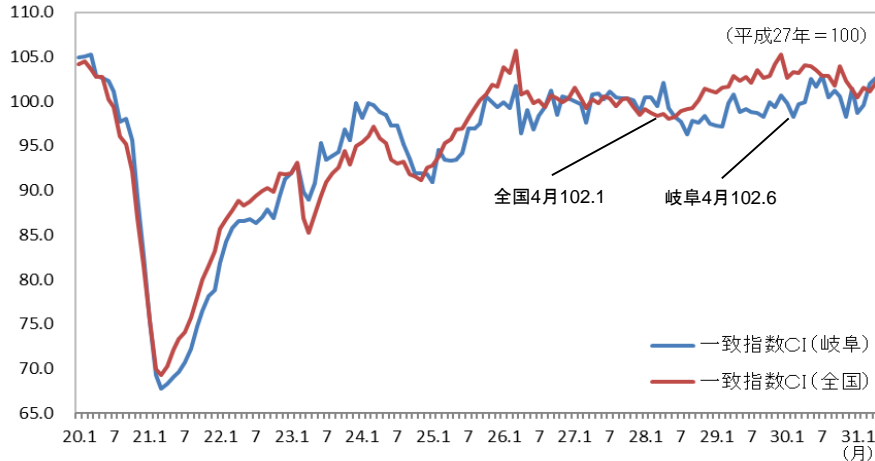
※企業等へのヒアリングは 7月25日～29日を中心に実施し、8月9日に作成。

景気動向

- 4月の景気動向指数(一致指数)は、102.6と前月比0.6ポイント改善した。
- 6月の県内中小企業の景況感は、▲37で前月比▲17ポイントと悪化した。

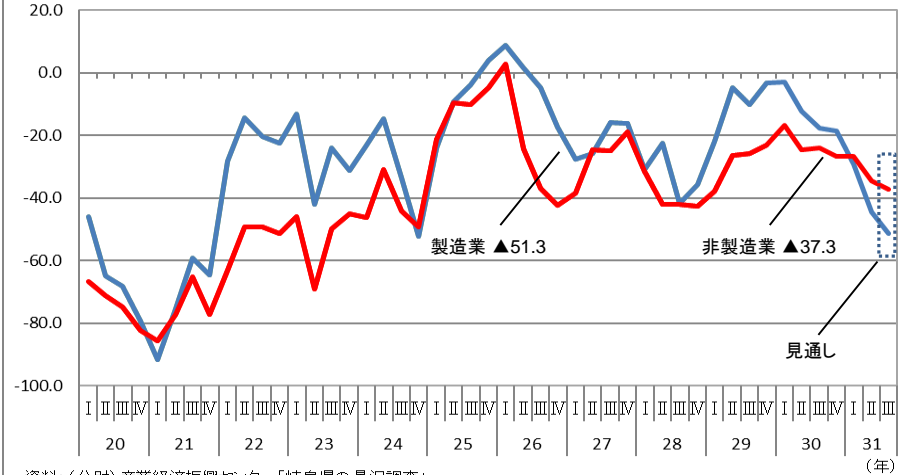
- 7-9月期の景況DI見通しは、製造業で▲7.0ポイント、非製造業で▲2.8ポイントと悪化。
- 同売上高DI見通しは、製造業で▲8.3ポイント、非製造業で▲6.2ポイントと悪化。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



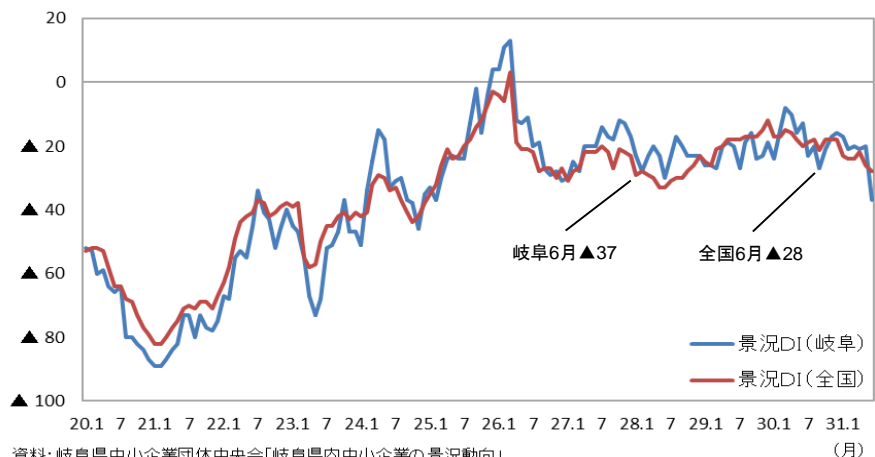
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



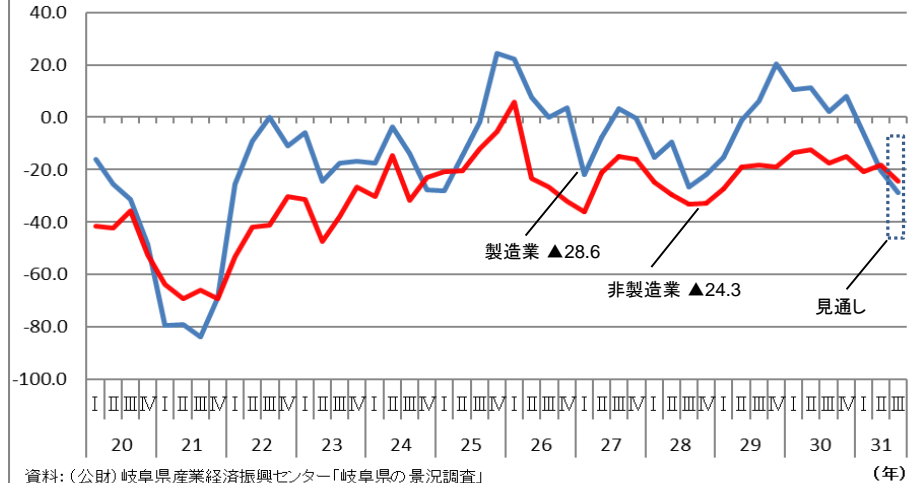
資料: (公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」、全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



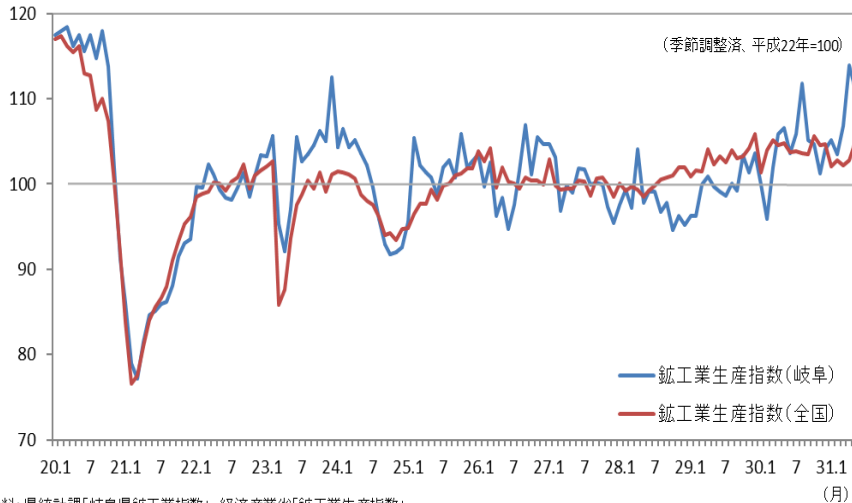
資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

製造業

- 5月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、111.2と前月比▲2.4%と低下した。
- 主要産業では、上昇する産業も見られたが、前月比で化学工業が大幅に低下した。

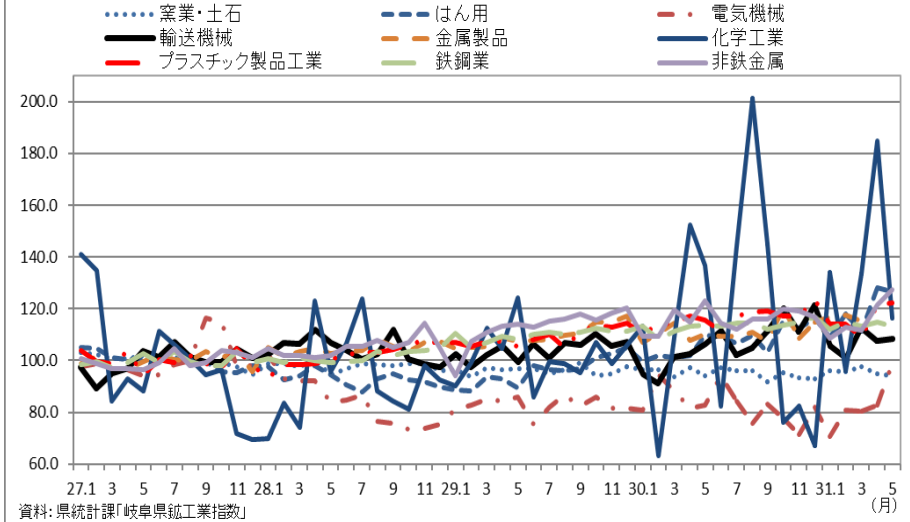
- 5月の主な産業の指数は、化学工業で前月比▲37.1%と大幅に低下したものの、電気機械で同19.6%、金属製品で同5.7%と上昇する等、上昇する産業も見られた。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)

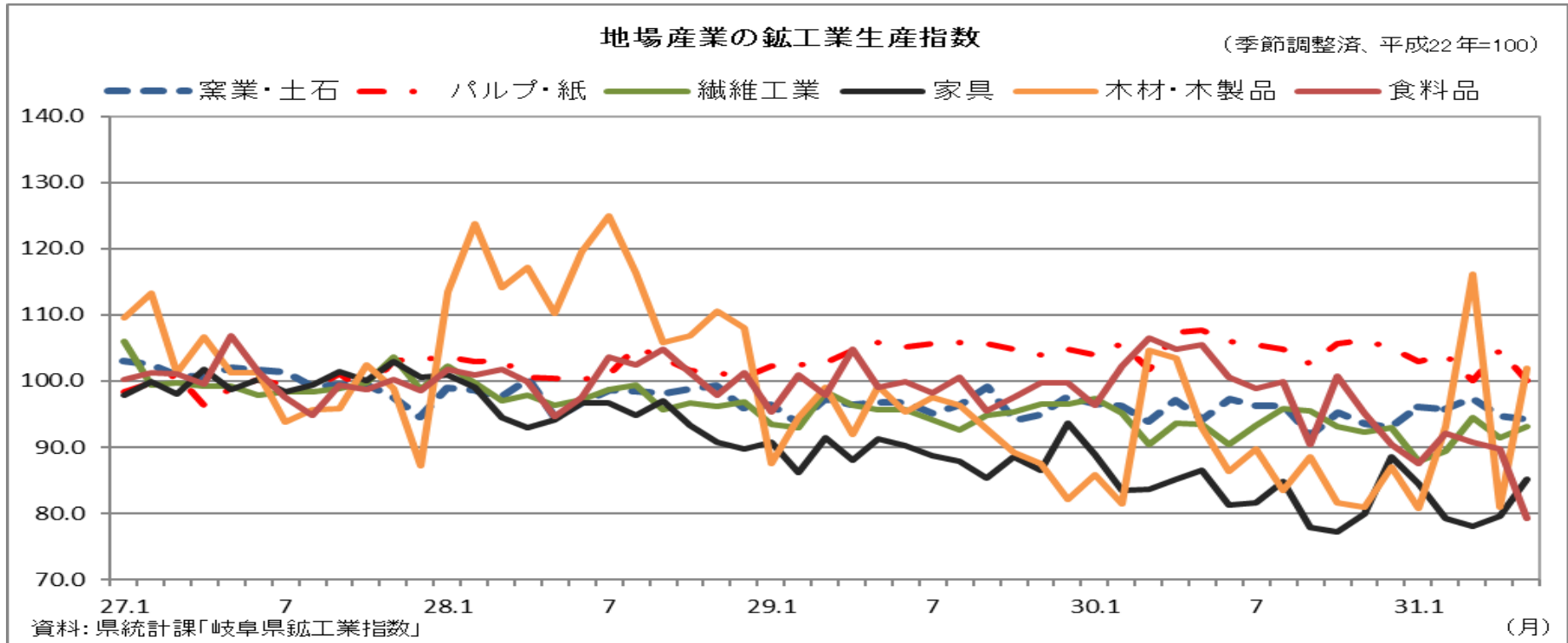


現場の動き

- ◆自動車部品関連の受注は、来年中は現状の水準を維持していこうと聞いている。(輸送用機械)
- ◆自動車関連の売上は全体の約6割を占めており、受注状況については、今年いっぱいの見込みは立っていることから、順調に推移している。(輸送用機械)
- ◆7月の売上高は前月比では増加、前年同月比では同水準であると予想している。(輸送用機械)
- ◆前月からはやや回復しているが、前年同月比では20%程度落ち込んでいる。(電気機械)
- ◆工作機械の受注は全体的に減ってきていると聞いているが、当社への受注はこれまでと変わらない。(はん用機械)
- ◆前年同月比で約20%減少している。スマートフォンに関しては、回復の見込みがない。(金属製品)
- ◆主要取引先の大型工作機械関連の受注は、前期と同じ程度だが、業界の間では9月頃から下火になるのではないかと予想されている。(金属製品)

製造業-2

○5月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、木材・木製品で前月比25.9%、家具で同6.9%、繊維工業で同2.0%と上昇したものの、食料品で同▲11.7%と大幅に低下したほか、パルプ・紙で同▲4.5%、窯業・土石で同▲0.6%と低下した。

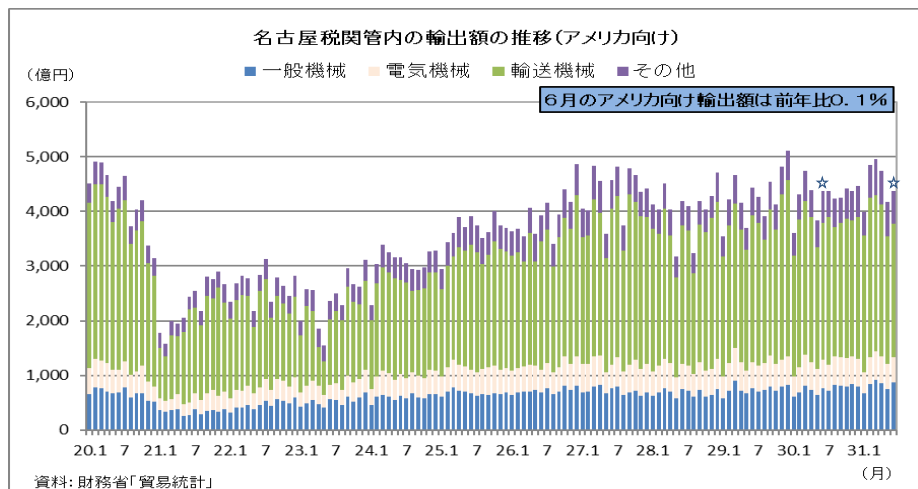
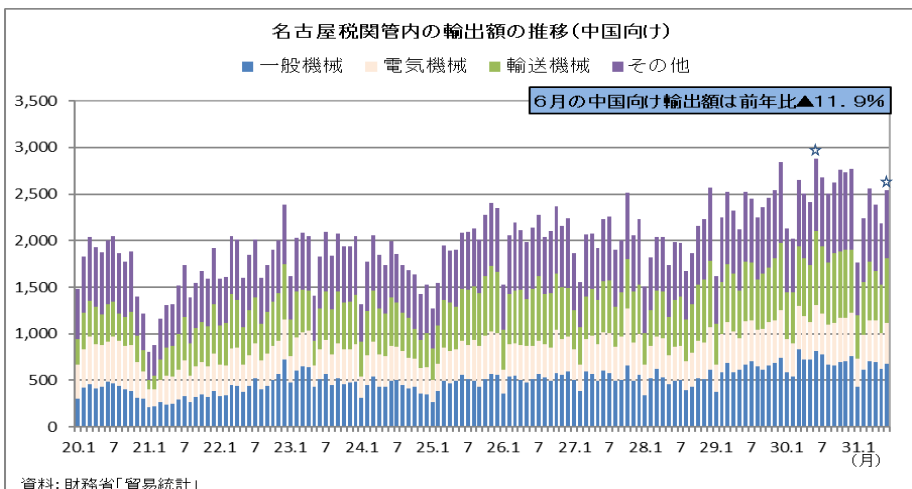
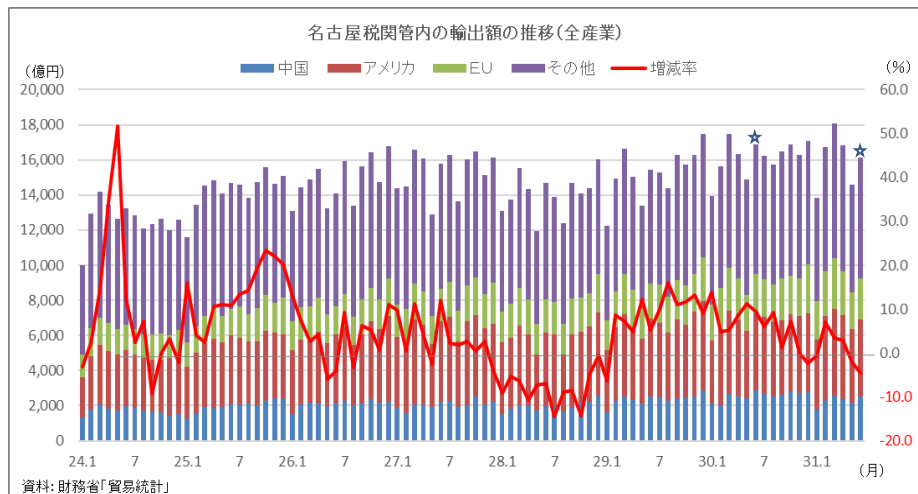
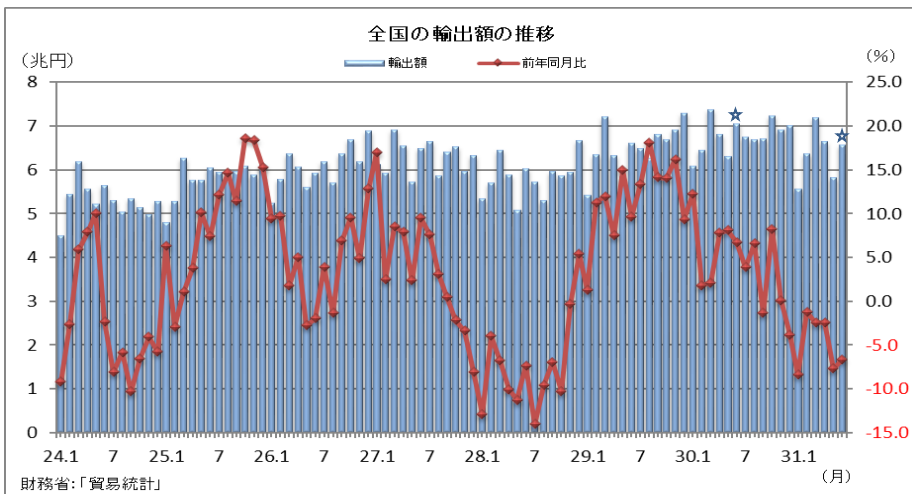


現場の動き

- ◆近年はクールビズの影響もあり、業界の中でもメンズスーツ市場が特に厳しい。(アパレル)
- ◆楽観はできないが、ギフト等を含め、堅実な取引で推移しており、業況は前年同程度。(陶磁器)
- ◆大手の小売事業者に卸している同業者からは、比較的高い値段で卸すことができたと聞いている。(陶磁器)
- ◆新商品開発などの展開を進めている。(紙)
- ◆昨年と比較して売上は減少する見込み。(食品)
- ◆若干良くなってきてはいるが、まだ低迷している状況。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 6月の輸出額(全国)は、6兆5,858億円の前年同月比▲6.6%と7ヶ月連続で減少となった。
- 6月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆6,144億円で前年同月比▲4.5%と減少し、2ヶ月連続で前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比▲11.9%と減少し、4ヶ月連続で前年を下回った。
- その内、一般機械で前年同月比▲17.0%、輸送機械で同▲11.7%等と大幅に減少した。
- アメリカ向けは、全体で同0.1%と微増し、6ヶ月連続で前年を上回った。



為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆原油価格が7月に再び値上げとなった。環境は依然として不透明であり、状況を注視している。(輸送用機械)
- ◆原材料価格については、下落基調に変化はなく、値上げの動きも今のところない。(輸送用機械)
- ◆市場では、鋼材の値上がりによる影響が、数ヶ月遅れで出始めている。(金属製品)
- ◆原料について、各社の値上げが始まっており、来年度はさらに本格的になるだろう。(陶磁器)
- ◆原料価格は高止まりの状態、落ち着いている。(紙)

米中貿易摩擦の影響について

- ◆直接的な影響よりかは、自動車メーカーからの受注動向に影響が出ている。(輸送用機械)
- ◆現地生産が進んでいるためか、そこまで大きな影響は出てきていない。(輸送用機械)
- ◆売上が徐々に下降気味である。発注元が貿易摩擦について様子見をしていることが考えられる。(電気機械)
- ◆今現在は米中貿易摩擦の影響もあり、去年と比較すると受注が落ち着いている。(はん用機械)

消費増税の影響について

- ◆増税に伴い、6月は見込受注が増えていたが、7月に入ってから落ち着いている。(輸送用機械)
- ◆自動車は住宅に次ぐ高額消費財となるが、駆け込み需要に伴う受注の変化は特に見られない。(輸送用機械)
- ◆学生服等、販売見込みのある商品については、増税前に調達しようといった動きがある。(アパレル)
- ◆消費増税後は消費が冷え込むことが想定され、影響が出ると思われる。(紙)

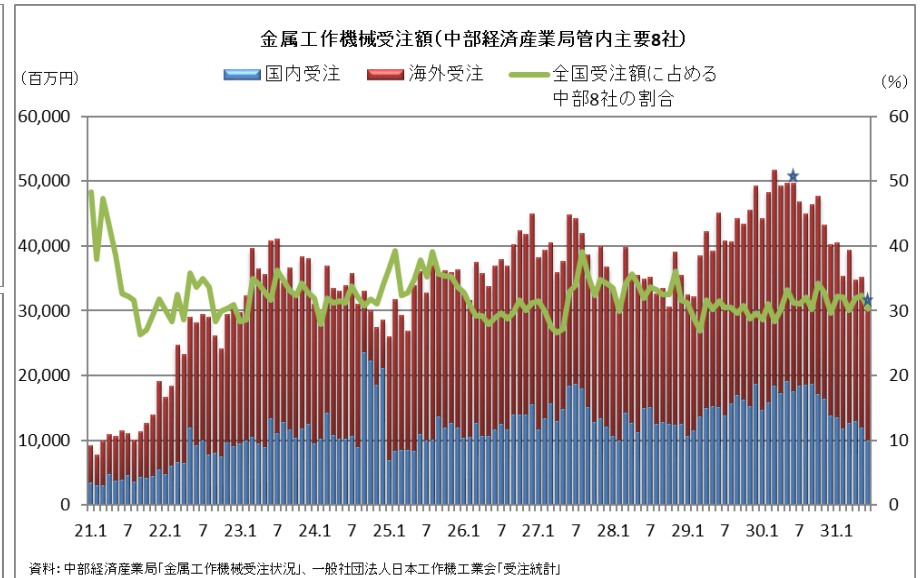
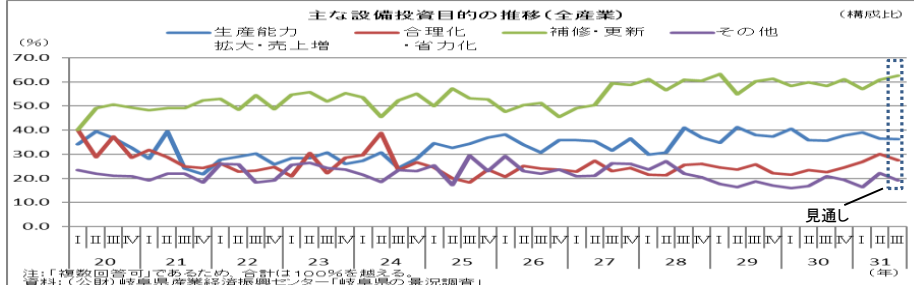
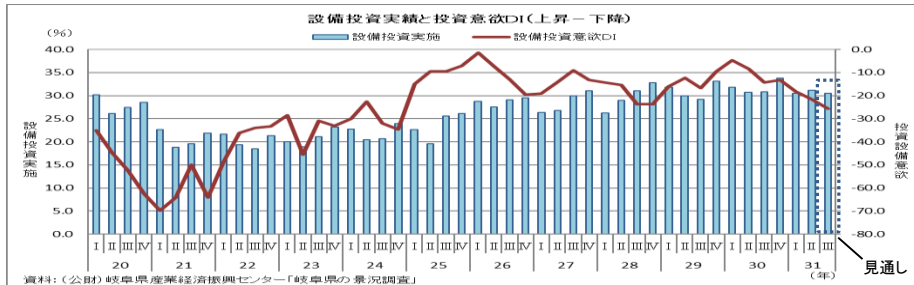
業界トピックスについて

- ◆日本による韓国向け輸出管理の厳格化について、現在の状況を見越し、韓国企業は7月以前に在庫の積み増しを行ったようだ。(輸送用機械)
- ◆米中の貿易摩擦に加え、日韓の通商問題も発生しており、今後の影響が懸念される。(輸送用機械)
- ◆大手自動車メーカーが大規模なリストラを発表したことから、今後の状況を注視していく。(輸送用機械)
- ◆中国での環境車規制の転換(ハイブリッド車を優遇)が示され、一時的に販売台数が落ち込んでいる。(金属製造)

設備投資

○7-9月期の設備投資実施実績見通しは前期比▲0.7ポイントと低下、設備投資意欲DI見通しは同▲3.9ポイントと低下。目的別では、「生産能力拡大・売上増」が前期比▲0.1ポイント、「合理化・省力化」が同▲2.7ポイントと低下するも、「補修・更新」は同1.7ポイント上昇する見通し。

○6月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲39.7%と8ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では多くの工業向けが不調で、同▲43.5%と7ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同▲37.6%と8ヶ月連続で前年を下回った。



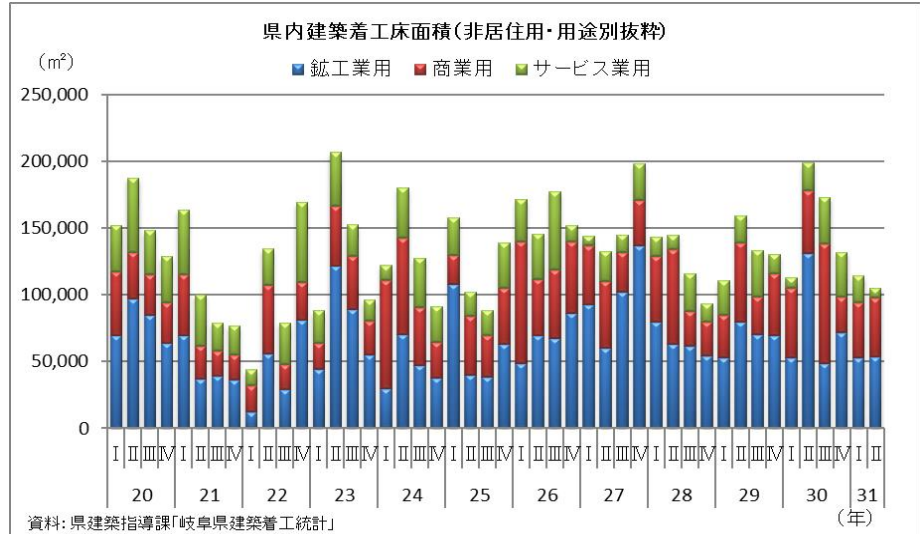
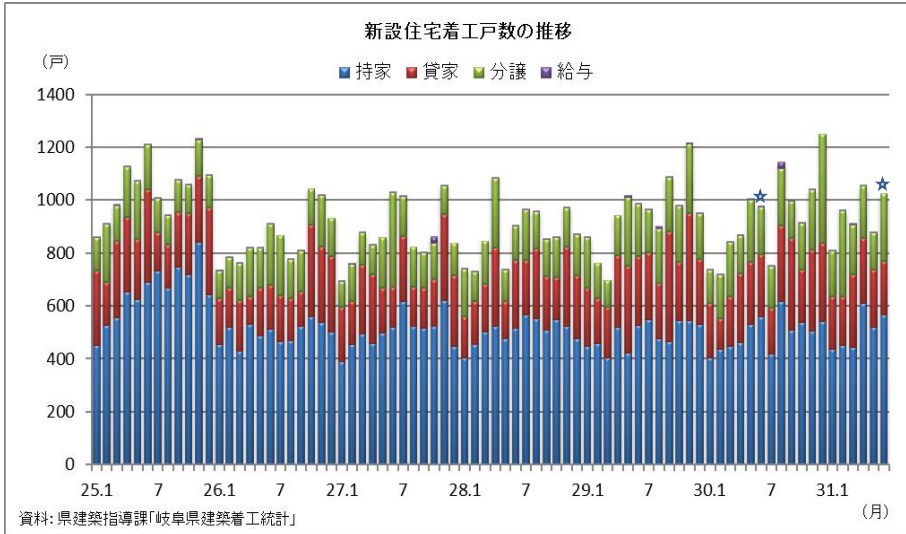
現場の動き

- ◆来期には、工場用地の拡張、新工場の建設を始める予定。(輸送用機械)
- ◆7月は新型設備を導入し、10月にも導入予定があるが、自動車業界の先行きが上向いていないことから、必須と位置付けている設備案件以外は見直しを行っている。(輸送用機械)
- ◆設備の老朽化のため、数億円程度の設備更新を行う計画がある。(金属製品)
- ◆中国からの受注は引き続き低調であり、アジア、欧米地域でも、投資に慎重な動きが見られる。(生産用機械)
- ◆運送業において積極的な投資が実施されている。倉庫での在庫管理や保管サービスの提供、車両の入れ替えが実施されており、工賃の見直しにより、業界に多少の余力が生じているため、投資し易い環境となっている。(金融)

住宅・建築投資

- 6月の住宅着工戸数は、前年同月比4.6%と2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- 貸家で前年同月比▲14.4%と大幅に減少したものの、分譲で同42.0%、持家で同1.4%と増加し、全体としても前年同月を上回った。

- 4-6月期の建築着工床面積は、鉱工業用で前年同期比▲59.0%、商業用で同▲7.3%、サービス業用で同▲62.8%と減少したことから、全体としては同▲47.2%と9期ぶりに減少に転じた。

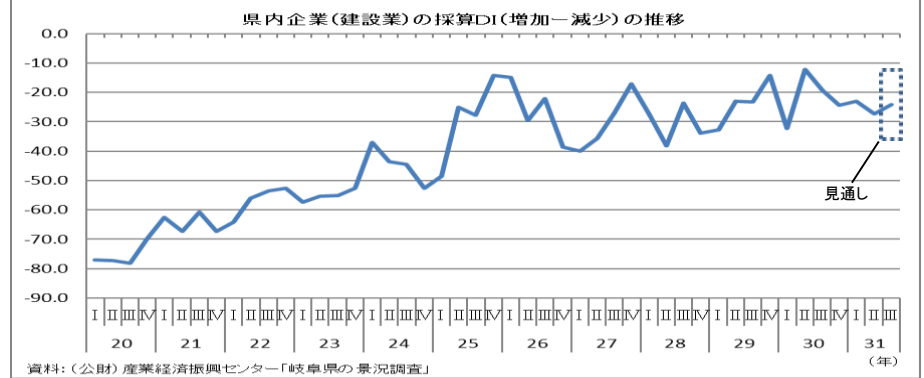
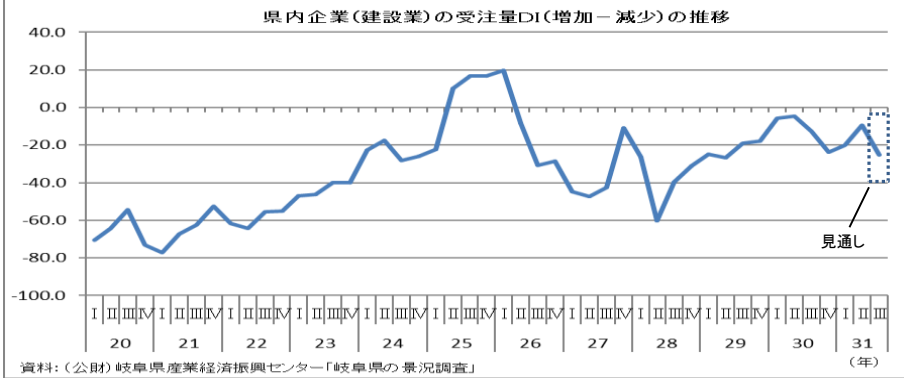
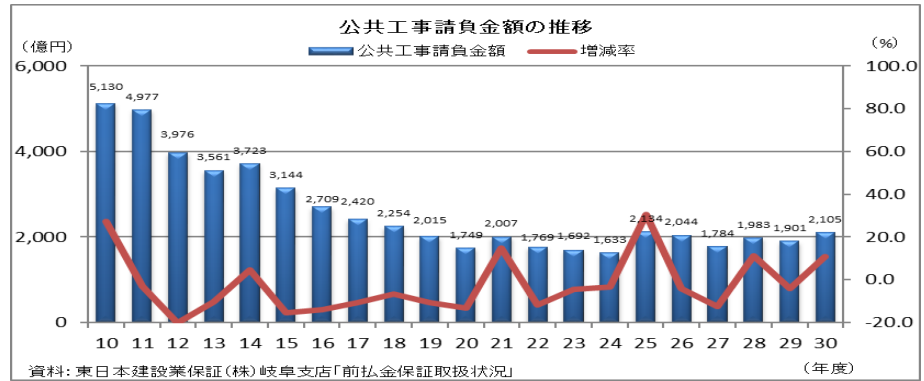
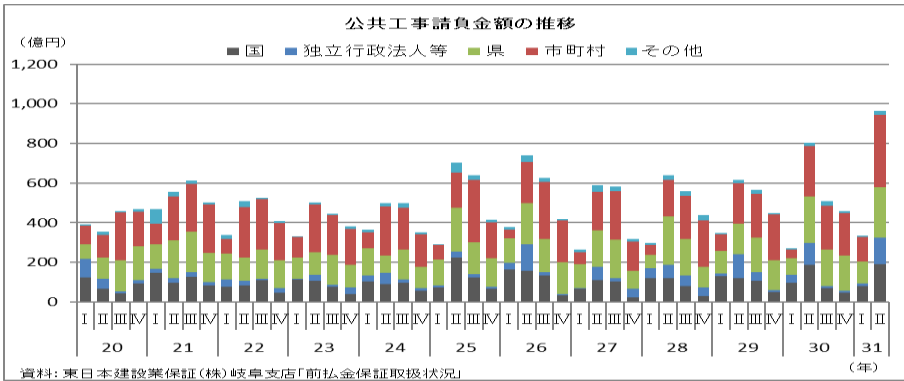


現場の動き

- ◆売上は全体で前年同月比106%と増加した。(木材加工)
- ◆配送運賃が高くなってきており、いずれ原木価格に影響してくることが予想される。(木材加工)
- ◆原油価格、製材コスト、運搬コストは先月同様に厳しい状況が継続している。(木材加工)
- ◆7月の九州の豪雨災害により、出材が減少することが予想される。(木材加工)
- ◆住宅の契約状況は、前年同時期と比べて低く、落ち込みがある。展示会場への来場者も約半数に減少しており、そのうち契約に繋がった割合は13パーセント程度であった。(住宅建設)
- ◆入荷量は増加したが、引き続き売り先の需要が少ないため、出荷量は例年と比べて少ない状況。(木材市場)
- ◆慢性的な人手不足。今の若い人達は給料よりも待遇面を重視するため、なかなか集まらない。(流通組合)
- ◆人手不足のため、今後施設の自動化を進め、省力化を図っていく必要がある。(流通組合)

公共工事

- 4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、市町村で前年同期比43.7%、その他で同42.2%、独立行政法人で同18.1%、県で同7.8%、国で同3.3%増加し、全体で同20.2%増加した。
- 県内建設業の7－9月期の受注量DI見通しは前期比▲15.9ポイントと悪化した一方、同採算DI見通しは同3.2ポイントと改善した。



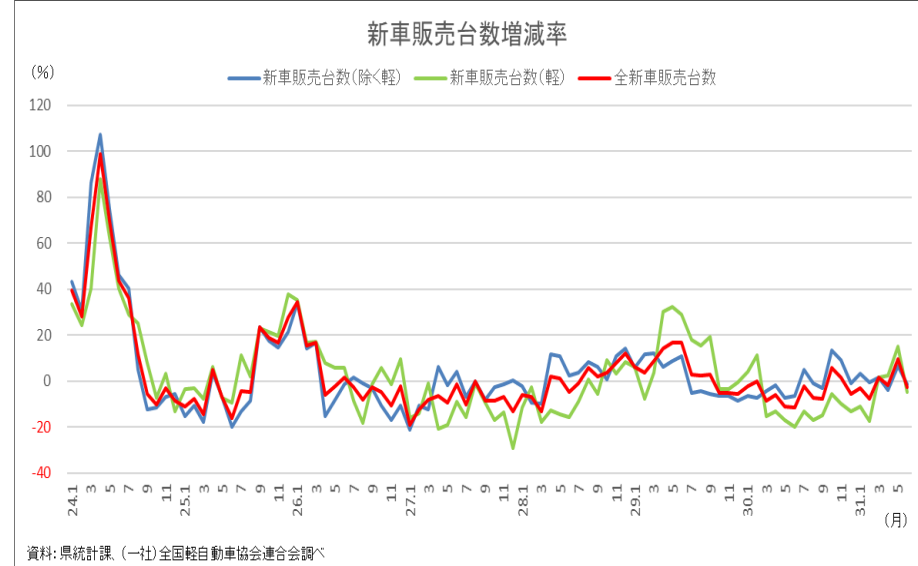
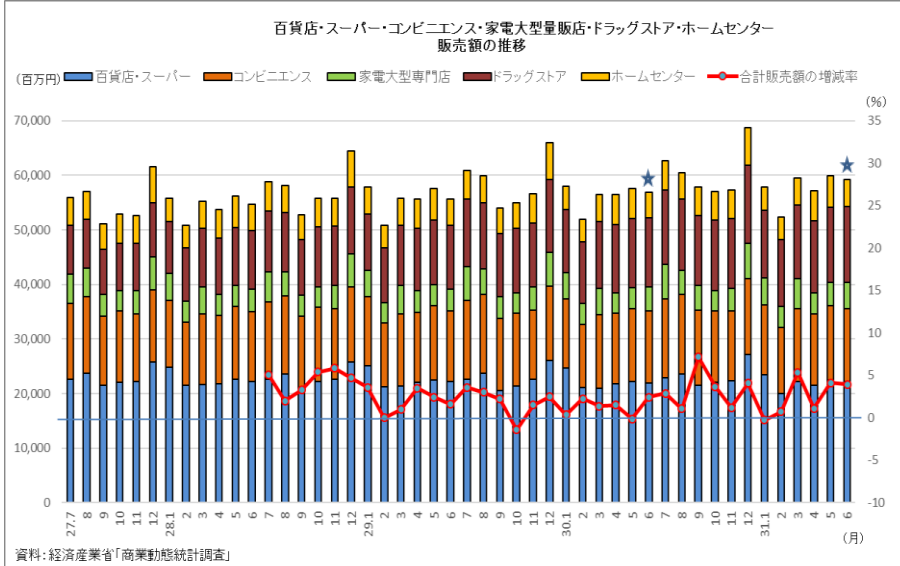
現場の動き

- ◆今後の受注量の増加により、生コン価格や交通誘導員の賃金の上昇が想定される。
- ◆求人を出して人が来る時代ではない。技術者については常時募集をしているが、反応は大変薄い。
- ◆仕事が増えても人材の確保・育成が進んでいない状況。
- ◆高齢化により作業員が減少しており、現在は、オペレーターの多能工化で凌いでいる。
- ◆ICTに関連する投資を計画的に実施している。(以上、建設業者)

個人消費(流通・小売)

○6月は百貨店・スーパーで前年同月比1.7%、コンビニで同0.1%、家電大型専門店と同10.0%、ドラッグストアで同10.6%、ホームセンターで同2.3%と増加し、全体で同4.0%と5ヶ月連続で前年同月を上回った。

○6月の新車販売(除く軽)は、前年同月比▲1.3%と2ヶ月ぶりに前年同月を下回り、軽自動車は、同▲4.8%と4ヶ月ぶりに前年を下回った。
○合算では同▲2.5%と、2ヶ月にぶりに前年同月を下回った。

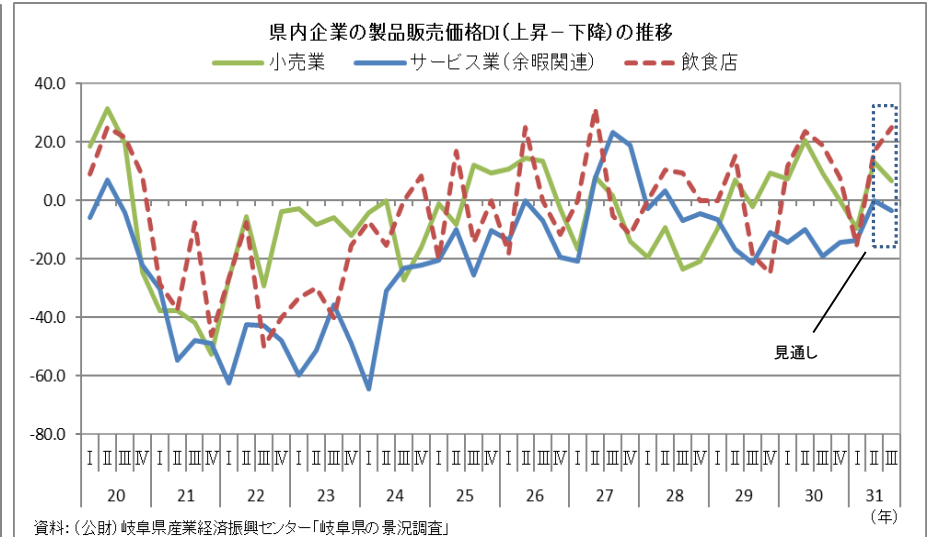
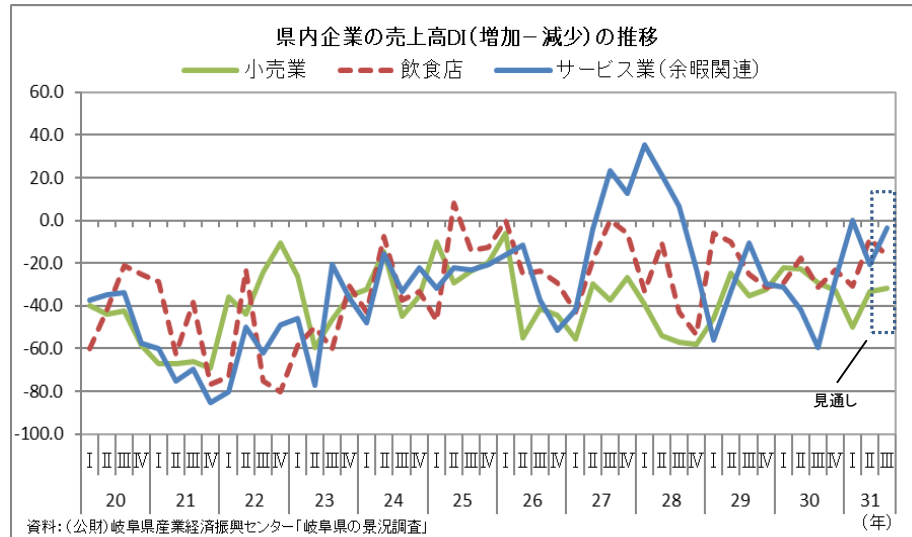


現場の動き

- ◆売上は前年同月比93%、来客は同95%。天候不順が大きく影響した。
- ◆増床部分に単独で集客力を持つテナントが入り、波及効果を期待している。(以上、岐阜市内大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比99.5%、来客は同98.1%。天候不順により、食品以外に水着等の衣類にも影響した。
- ◆消費増税後に向けて、落ち込む購買意欲に対してどう乗り切るのが課題である。
- ◆近隣施設のオープンやセールにより、来客数が低下したが、客単価は上昇した。(以上、大垣市内大型商業施設)
- ◆消費増税については、事前の周知により消費者は防衛対策を取っているため、駆け込みの購入もあまりないと思われる、景気も冷え込むと考えている。(岐阜市内スポーツ用品店)
- ◆キャッシュレス決済については、積極的に導入し、決済手段を充実させている。(岐阜市内家電販売店)

個人消費(流通・小売)ー2

- 7ー9月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比1.3ポイント、サービス業(余暇関連)で同17.2ポイントとそれぞれ改善したものの、飲食店では同▲8.3ポイントと悪化した。
- 同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比8.3ポイント改善したものの、小売店で同▲6.5ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲3.5ポイントとそれぞれ悪化した。



現場の動き

- ◆和菓子店の売上は前年同月比120%、飲食店で同106%、ブティックで同99%。
- ◆7月は雨の日が多く、来客は少なかったが、夏休みになり、小学生や家族連れが目立つ。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆日用品・雑貨店の売上は前年同月比80%。和菓子店の売上は同98%。
- ◆7月終盤までは晴天がほとんどなく、売上が減少し、天候が良い日の売上ではカバーできなかった。
- ◆お盆の新規短期アルバイトは募集せず、経験者の中から少人数で繁忙期に対応する。(以上、大垣市商店街)
- ◆酒類販売店の売上は前年同月比102%。近々、軽減税率対応レジに入れ替えを行う。
- ◆時計・宝石店の売上は同90%。若い人が時計・宝石を購入しなくなっている。
- ◆キャッシュレスの推進については、まだ現金が主体であり、なかなか進んでいない。(以上、多治見市商店街)
- ◆家電量販店の売上は前年同月比100%。猛暑だった昨年に比べて、エアコンの販売台数が7%減少している。
- ◆キャッシュレス決済については、順次導入している。(以上、高山市商店街)

観光

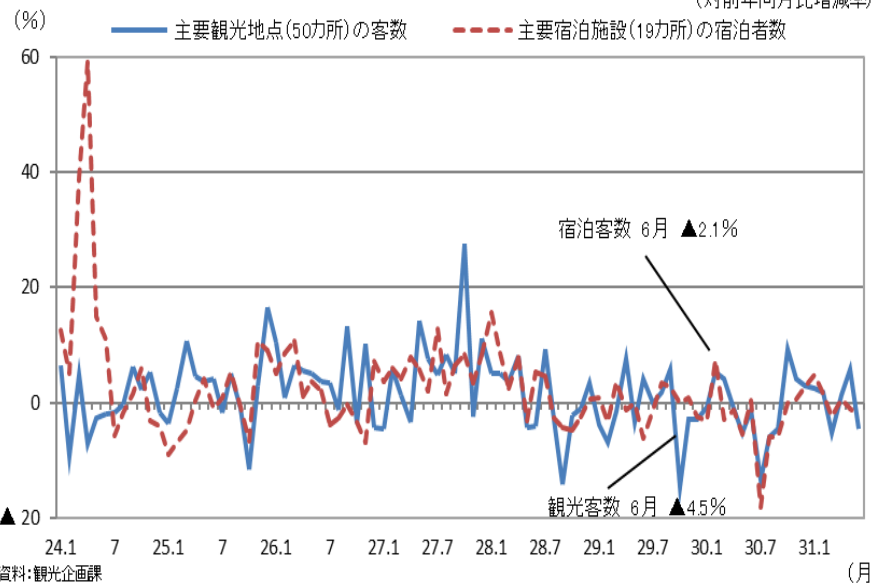
○主要観光地の6月の観光客数は、前年同月比▲4.5%と減少し、3ヶ月ぶりに前年同月を下回った。主要宿泊施設の宿泊者数は、前年同月比▲2.1%と減少し、2ヶ月連続で前年同月を下回った。

○6月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲4.4%と減少し、2ヶ月連続で前年同月を下回った。

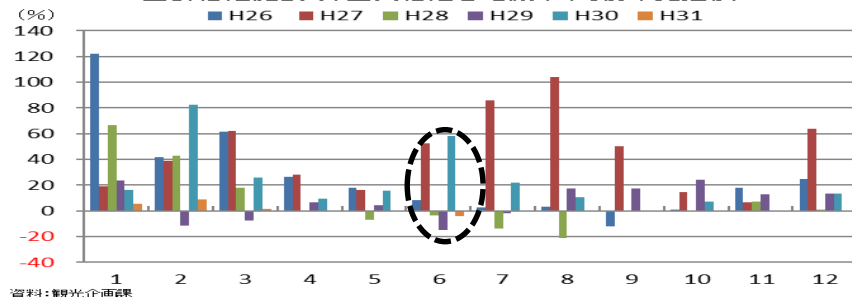
○1～3月期の主要観光地の観光宿泊者数は、前年同期比で長良川と高山が増加した。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移

(対前年同月比増減率)

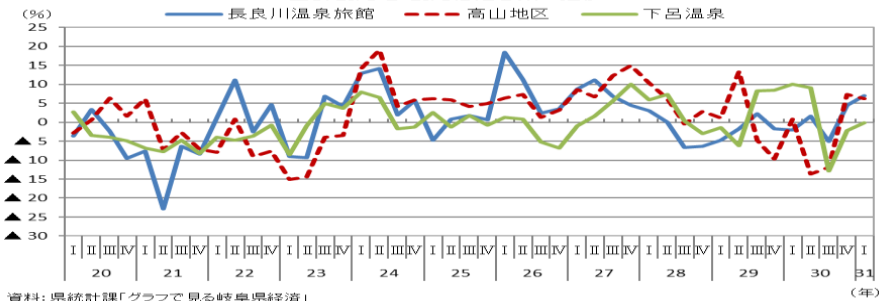


主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)



主要観光地 観光宿泊客数の推移

(前年同期比増減率)

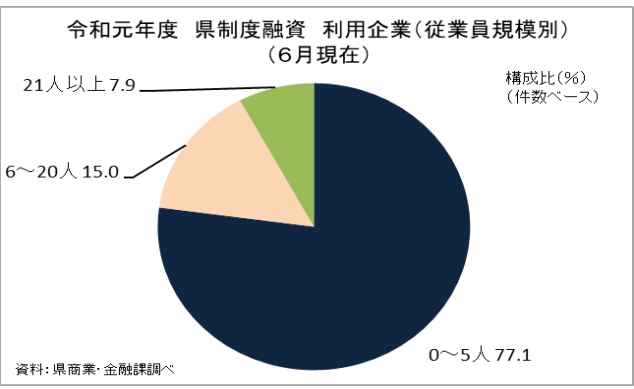
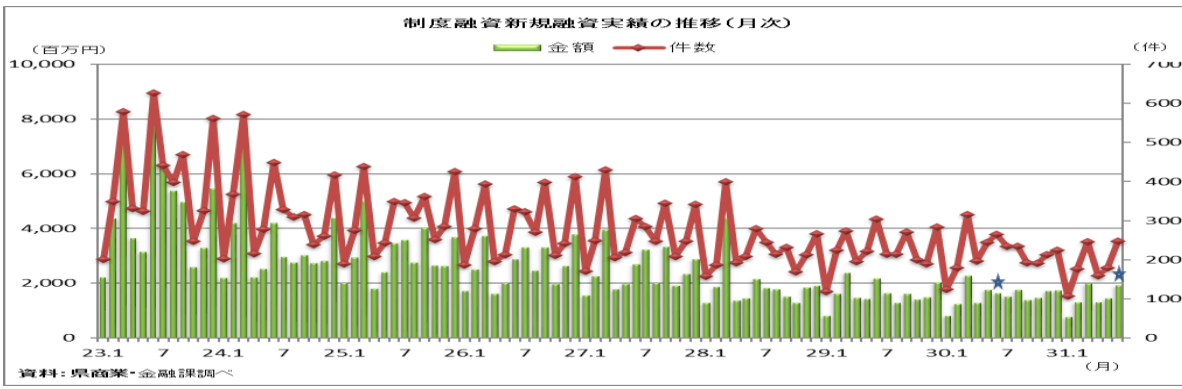
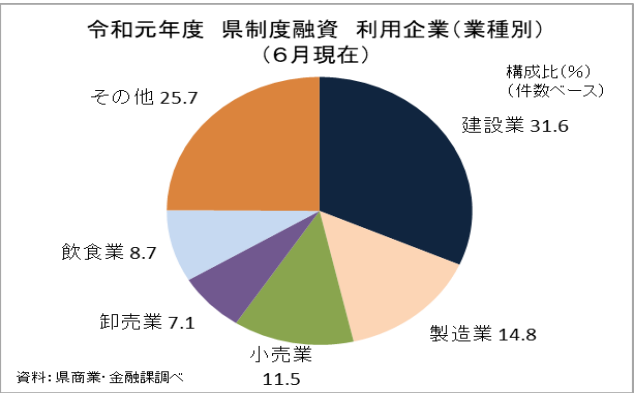
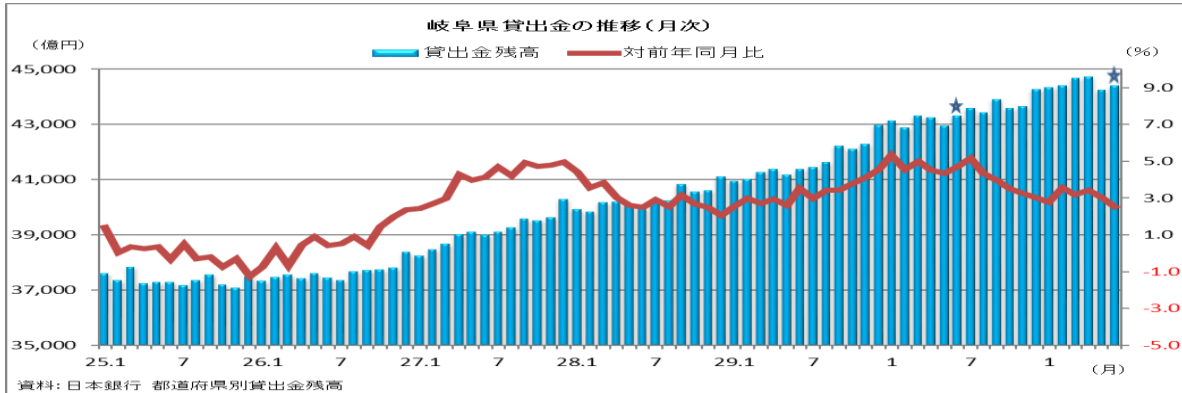


現場の動き

- ◆東アジアからのお客様が減少している。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆オーストラリアからのお客様が増加している。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆団体旅行客が減少している。(大垣市内、美濃市内、郡上市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆日本の輸出管理に対抗して、韓国からのお客様が減少することを心配している。(飛騨市内の宿泊施設)
- ◆お盆の期間は好調。(岐阜市内、郡上市内の宿泊施設)
- ◆特定技能の資格を持つ外国人を大いに活用したいが、入社直後の転職を心配している。(飛騨市内の宿泊施設)

資金繰り

- 6月の岐阜県貸出金残高は、4兆4,424億円で前年同月比2.5%とプラス基調が続く。
- 6月の制度融資実績は、金額が1,934百万円で前年同月比17.2%と2ヶ月ぶりに増加に転じた。件数は247件で同▲6.4%と、7ヶ月連続で減少となった。
- 従業員規模別では、5人以下の事業所が全体の77.1%を占めている。

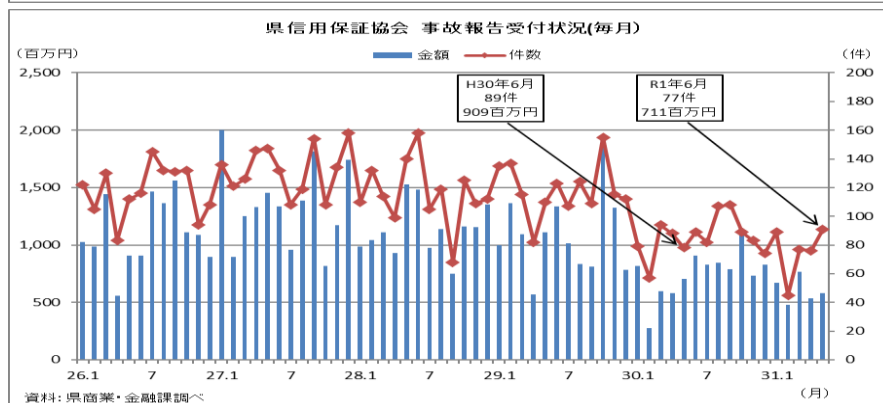
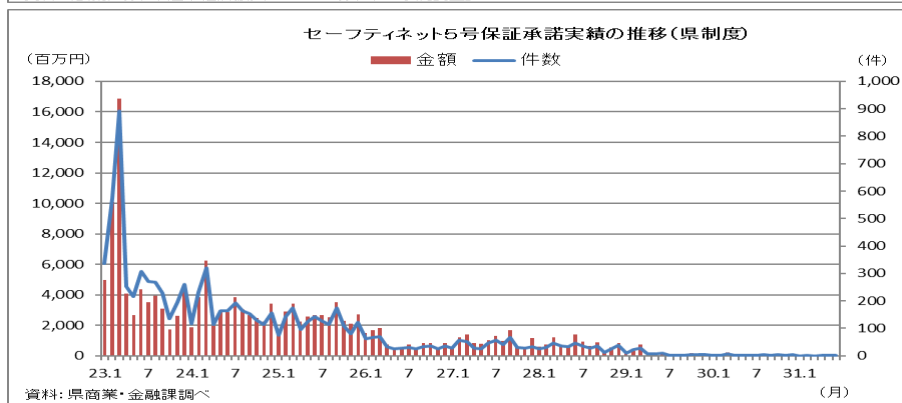
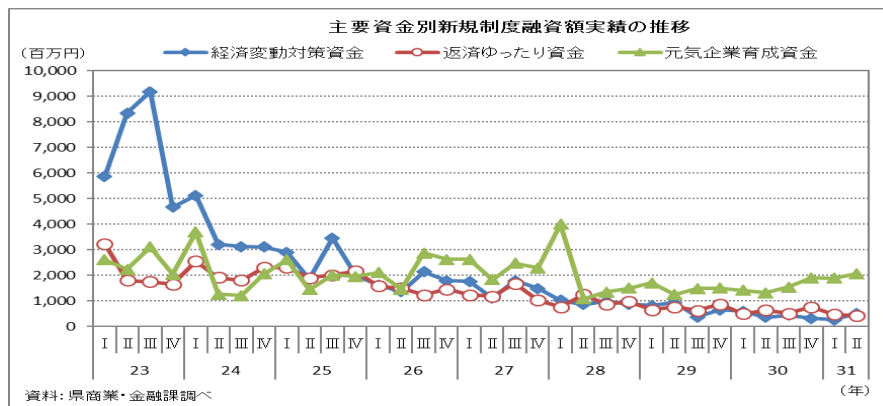
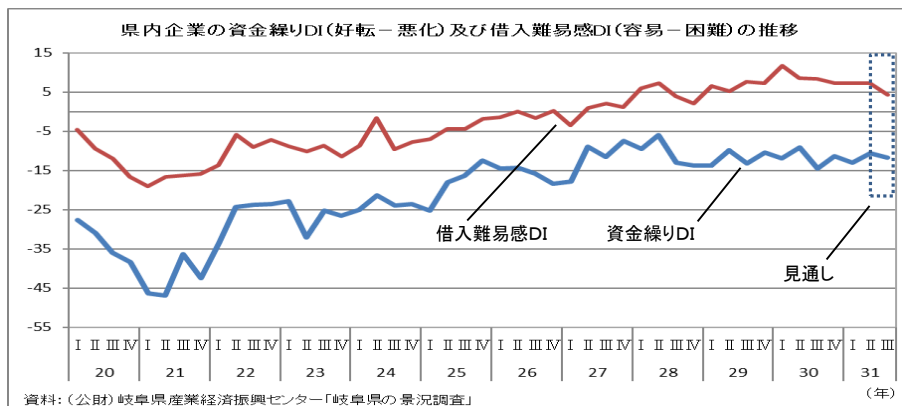


現場の動き

- ◆融資動向については、大きな変化はないが、前期比で数パーセントの減少傾向にある。
- ◆ひと昔と比べれば、信用保証協会の保証が付かない融資の割合が増えてきた印象がある。
- ◆貿易摩擦等によって生産調整に至ったという話は聞かないが、事業者も気にしている様子。
- ◆消費増税の動向については、地場産業に大きな影響が生じかねないことから、引き続き注視していく。
- ◆大手自動車メーカーの工場閉鎖による全国的な影響が、県内事業者の受注に及ぶ可能性もある。(以上、金融)

資金繰りー2

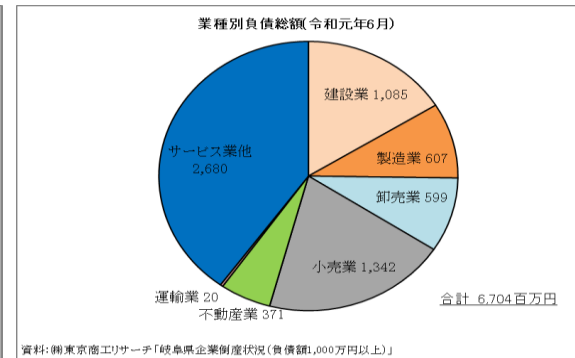
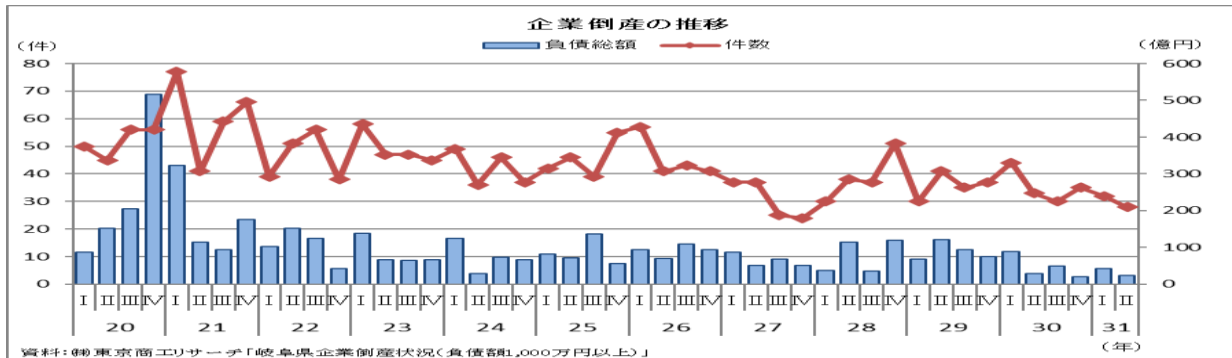
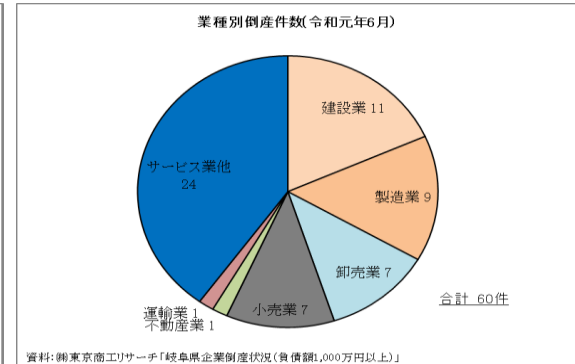
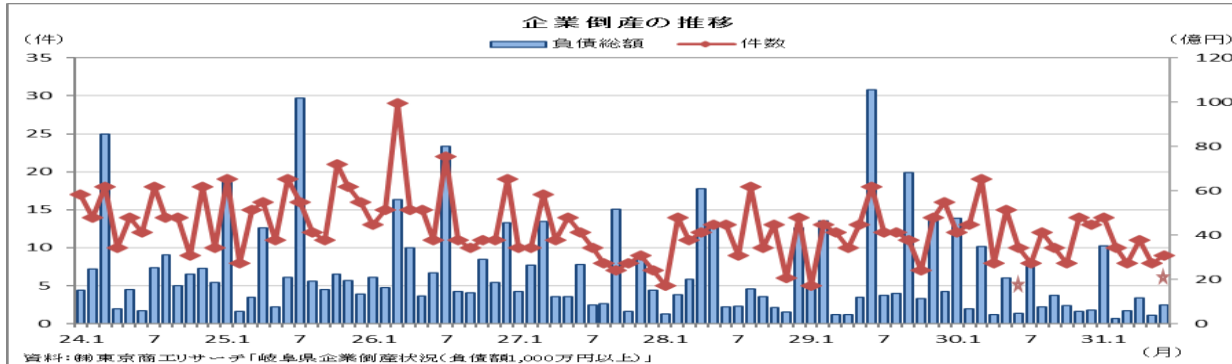
- 県内企業の7-9月期の資金繰りDIは見通しは▲11.7で、前期比▲1.2ポイントと悪化。同借入難易感DI見通しは4.3で、同▲2.9ポイントと悪化。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で前年同期比▲32.5%と減少が継続しているものの、経済変動対策資金で同38.4%と3ヶ月ぶりに増加、元気企業育成資金で同57.4%と5ヶ月連続で増加となった。
- 6月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が1件で前年同月比1件減少、金額は10百万円で同▲84.6%と減少し、全体の利用としては非常に低調に推移。
- 6月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は77件で前年同月比▲13.5%と2ヶ月ぶりに減少。金額は711百万円で同▲21.8%と3ヶ月連続で低下。



倒産

○6月の倒産件数は前月比1件増加の9件、負債総額は前月比459百万円増加の836百万円となった。

○1月～6月までの累計倒産件数は60件となり、前年同期の77件から17件減少。累計負債総額は6,704百万円となり、前年同期の11,835百万円から5,131百万円減少で推移した。



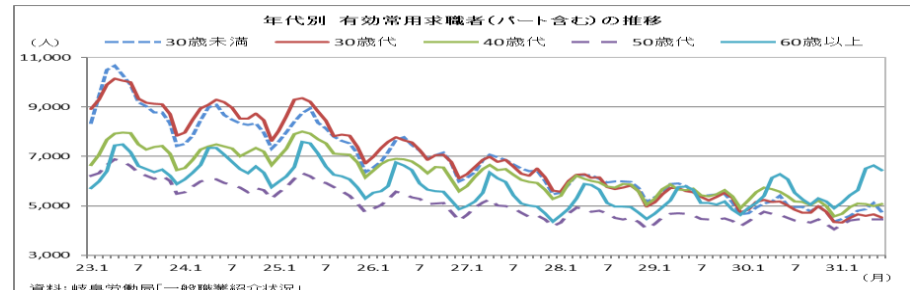
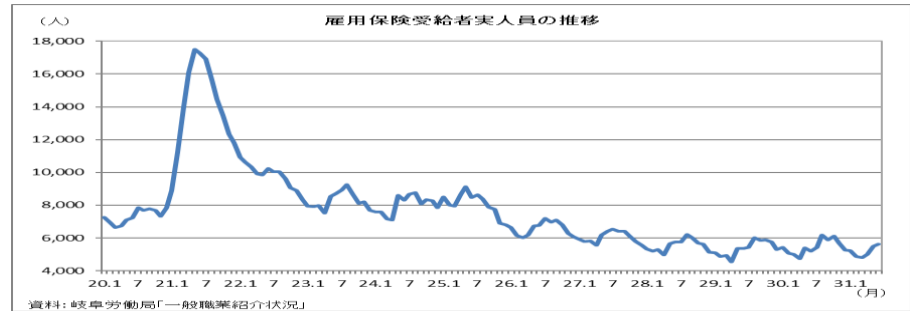
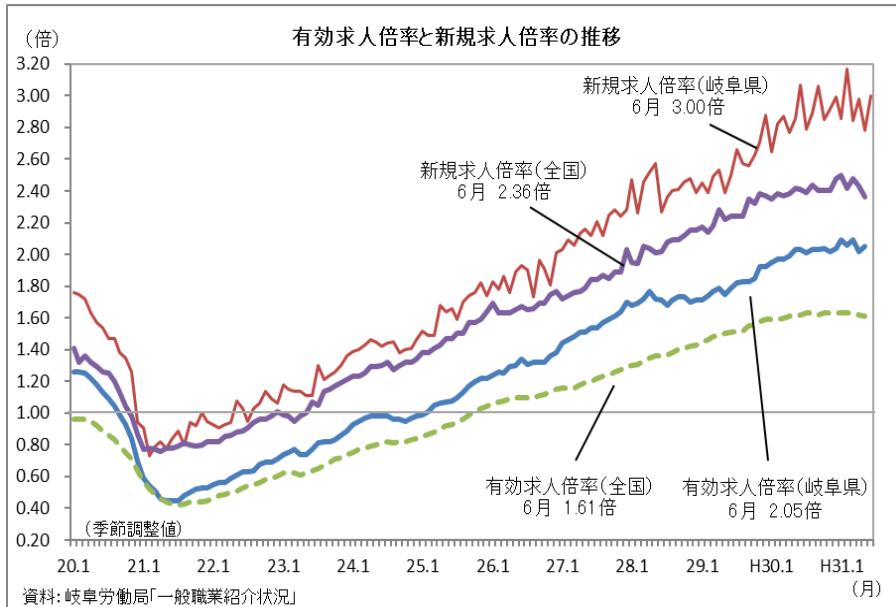
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆米中貿易摩擦を背景とした中国景気の減速等が輸出の停滞を招き、製造業の悪化基調が続いている。海外情勢を勘案すれば、今後の不透明感は否めない。また、日米貿易摩擦の動向が読めない中で10月に予定されている消費増税や、それを前にした食品等の値上げが予測される状況で、個人消費への悪影響が強まる懸念もある。
- ◆近時の倒産件数は10件前後の推移にあり、小康状態が続いているが、中小零細企業では依然として後継者不足や求人難に陥っており、対応を講じなければ、今後は「人手不足」に関連した倒産が増加する可能性も出てきている。

雇用

- 6月の有効求人倍率は2.05倍と、前月比0.03ポイント上昇し、全国で3番目の水準。
- 6月の新規求人倍率は3.00倍と前月より0.22ポイント上昇。

- 6月の雇用保険受給者人員は、前年同月比8.3%と上昇し、3ヶ月連続で前年を上回った。
- 年代別有効常用求職者は、60歳以上で前年同月比増加したものの、その他の年代は減少。



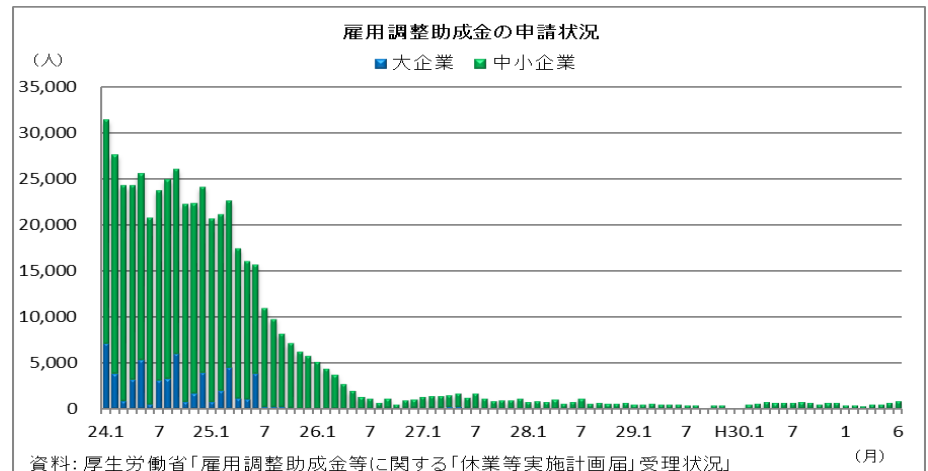
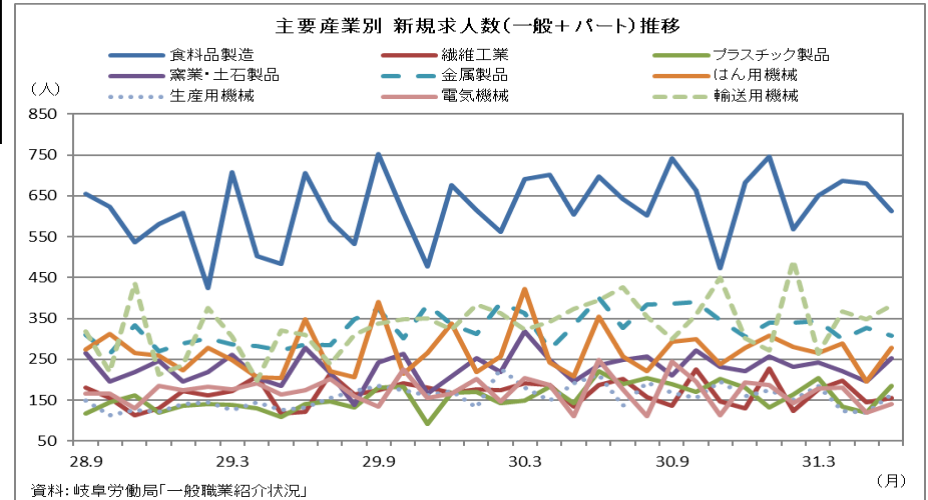
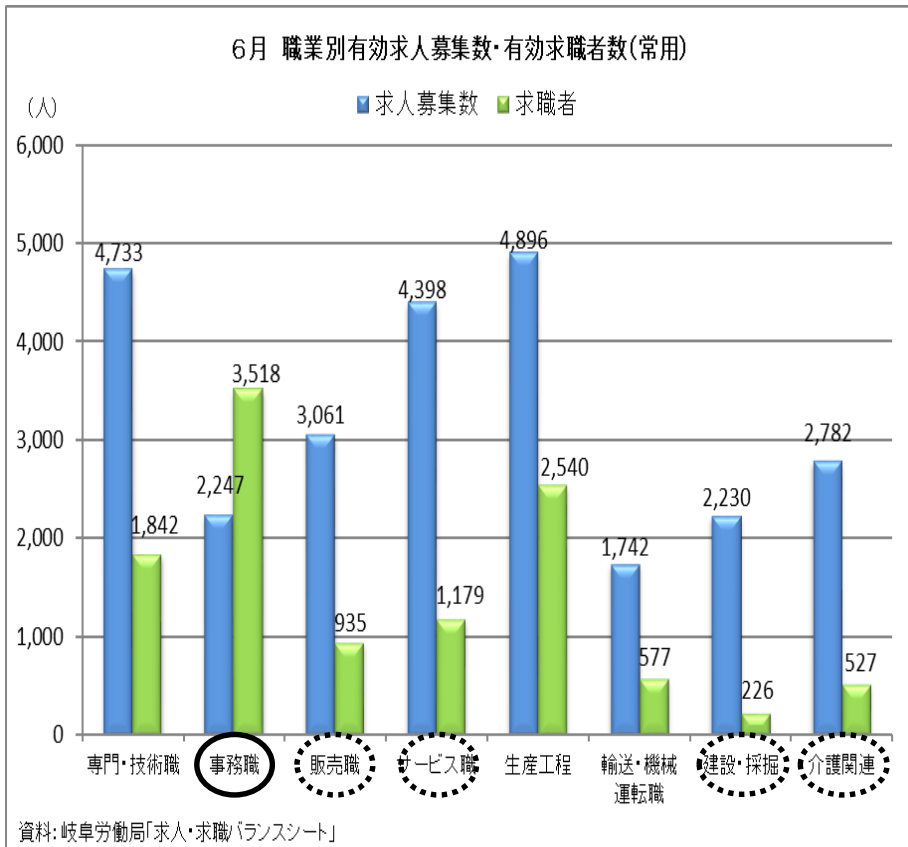
現場の動き

- ◆今年度に採用した社員も徐々に仕事に慣れてきているが、それでも人手不足感はある。(輸送用機械)
- ◆人手不足の中、女性やシニア層の雇用を検討しており、作業工程の見直しを進めている。(輸送用機械)
- ◆中途採用は積極的に募集しており、今年になり2名を採用したが、依然として人手不足感はある。(輸送用機械)
- ◆全体として人手不足だが、新工場では自動化を採用したため、人手はほとんどいらぬ状態である。(電気機械)
- ◆人手不足については、技術者が相変わらず不足しているが、以前よりは余裕がある状態。(はん用機械)
- ◆一時期の市況の過熱感が薄まってきたため、人手不足の逼迫感は現時点ではそれほどない。(生産用機械)
- ◆小さな企業の後継者不足による倒産を懸念しており、倒産した企業の従業員の受け皿的な役割をする必要があると考えている。(生産用機械)
- ◆有料の求人サイトに登録したところ、比較的募集があるようになった。(紙)

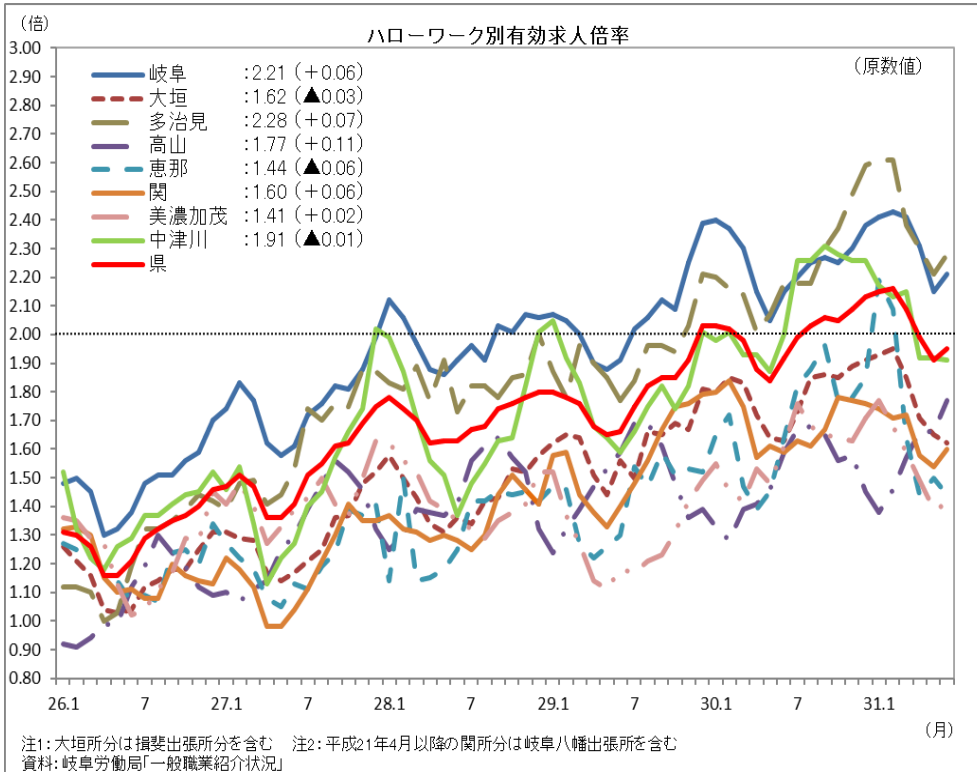
雇 用(職業別)

- 多くの分野において人手不足の状態。建設・採掘は求人倍率9.9倍、介護関連は求人倍率5.3倍となる等、特に顕著。
- また、販売職3.3倍、サービス職3.7倍などサービス産業においても人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.6倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 6月の主要産業新規求人数は、食品製造で前月比▲10.0%、金属製品で同▲6.1%と減少したものの、プラスチック製品で同54.2%、はん用機械で同43.1%と大幅に上昇した他、生産用機械、窯業・土石等多くの産業で上昇した。



雇用(地域別)



○6月のハローワーク別有効求人倍率は、岐阜、多治見が2倍超と高水準を維持した一方、大垣、恵那、中津川で前月比低下となった。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや横ばい、求職者はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数ともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

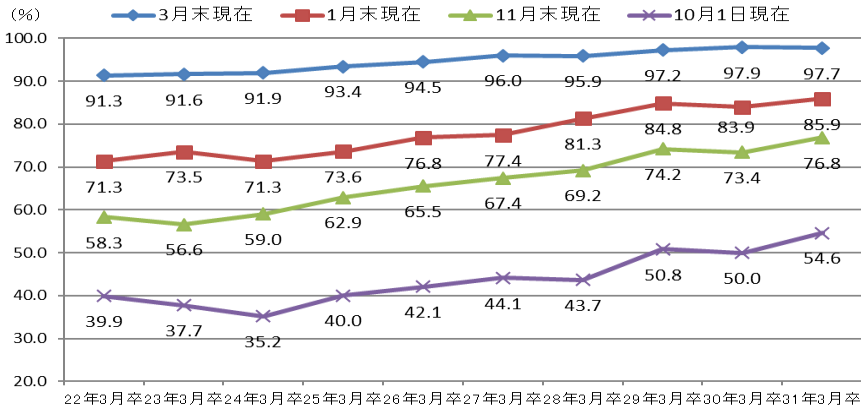
<窓口の様子> ※前月比

- ◆大垣、中津川以外は、混雑しているもしくは横ばい。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

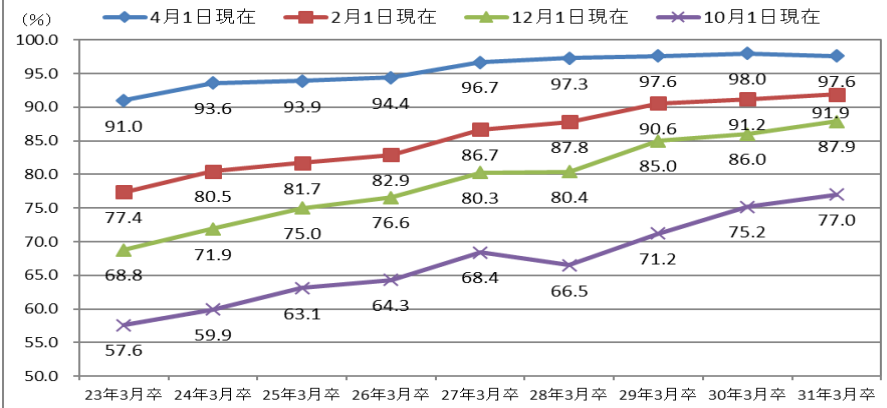
- 岐阜県の平成31年3月末時点の大学・短大卒業者(平成31年3月卒業)の就職内定率は、97.7%であり、前年比▲0.2ポイントと低下した。
- 全国の平成31年4月1日現在の大学・短大卒業者(平成31年3月卒業)内定率は97.6%であり、同▲0.4ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大等)の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2020卒の動きなど)

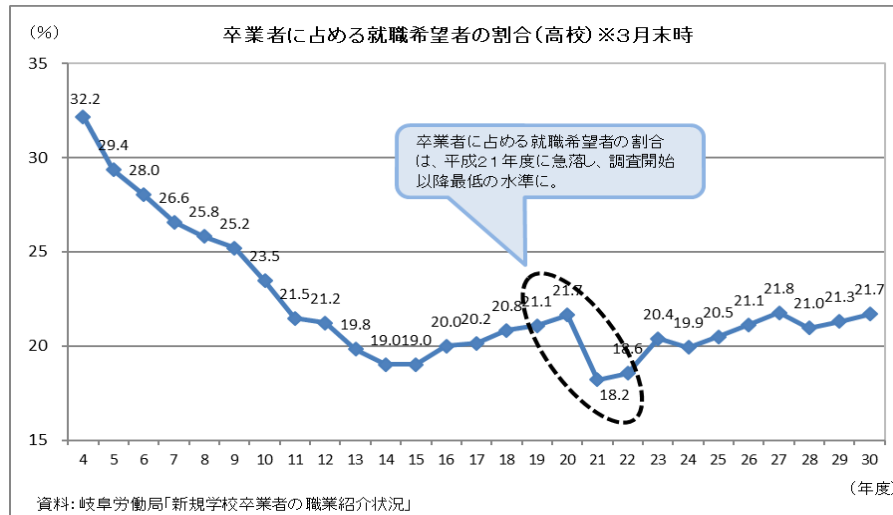
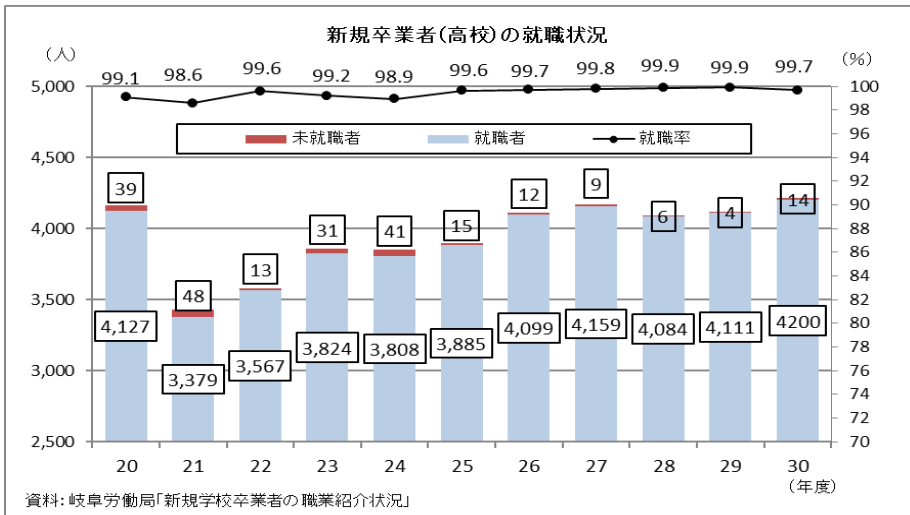
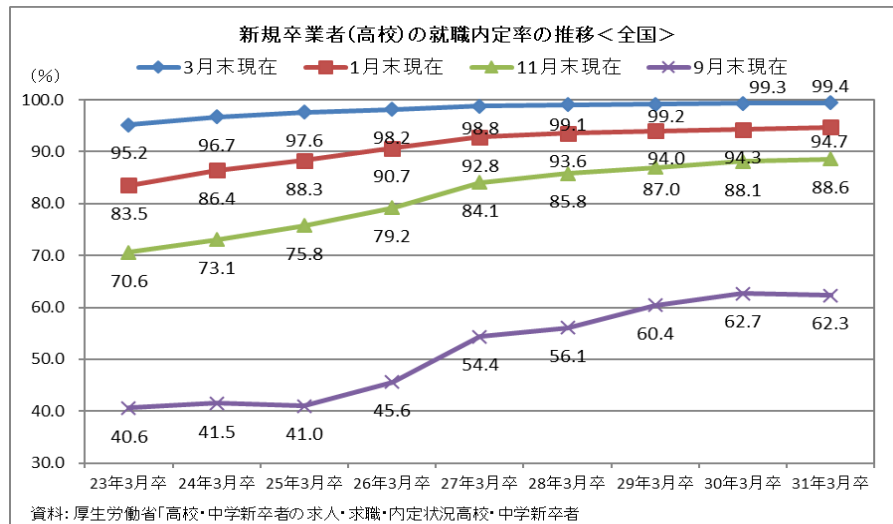
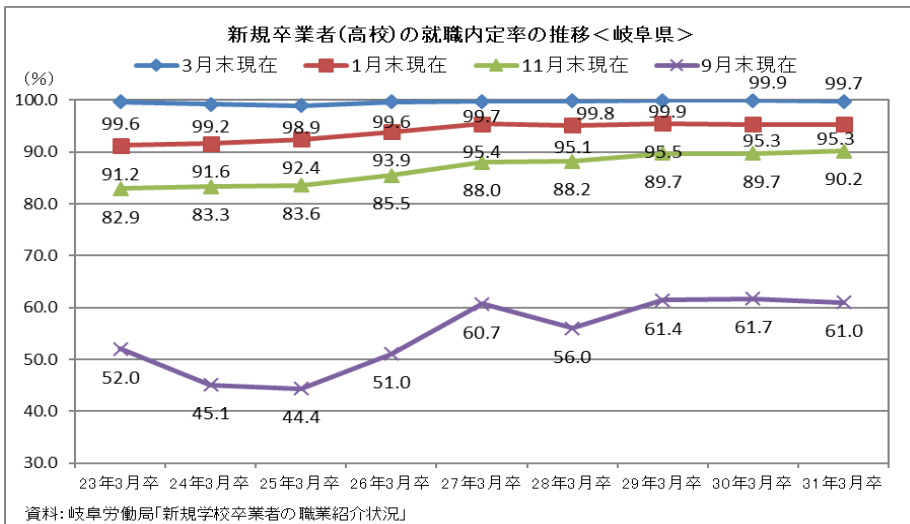
<大学へのヒアリング>

- ◆20卒については、企業も落ち着いている感じがあり、8割程度は決まっているのではないかと。
- ◆20卒の内定率は、67%。前年同時期も7割弱の内定率だったため、ほぼ変わらない。
- ◆20卒の内定率は、6割程度。今までにない企業からも内定が出ている。
- ◆21卒については、インターンシップへの参加に向けてのES添削依頼で、ほぼ予約が埋まっている。
- ◆21卒については、インターンシップへの参加を促しているが、まだ動きは見られない。(以上、岐阜県内大学)
- ◆20卒の内定率は、66%。前年同時期が63%だったため、微増している。
- ◆20卒の内定率は70%程度だが、まだ継続中の学生もかなり多くいる。
- ◆21卒については、インターンシップへの意識を高く持って取り組んでいる学生が多い印象。
- ◆21卒については、インターンシップへの参加の風潮が強まってきているが、全体の半分にも満たない。
- ◆21卒については、インターンシップ等の外部のイベントに積極的に参加している様子。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

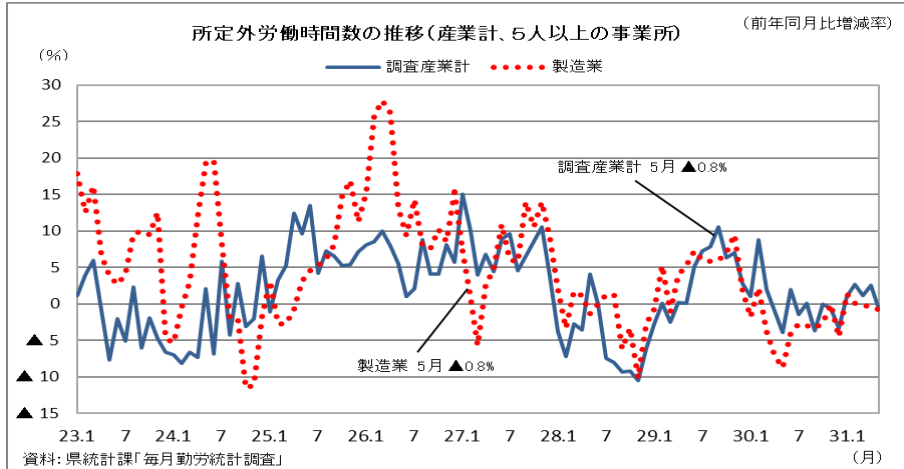
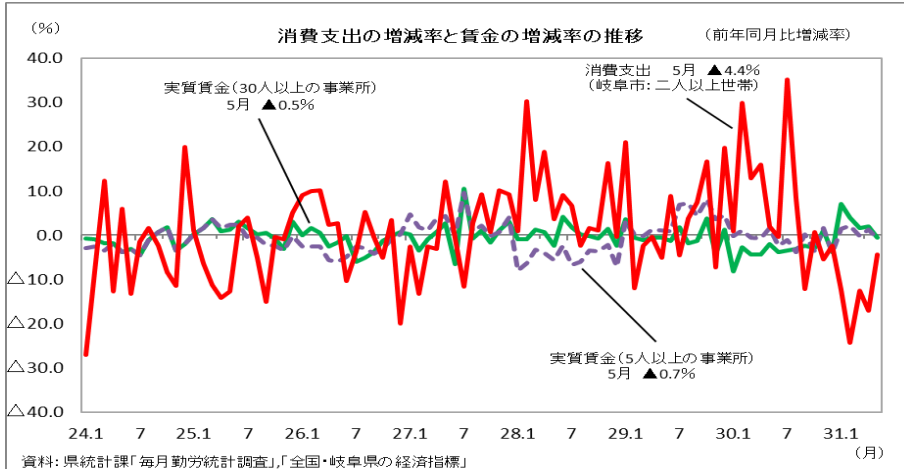
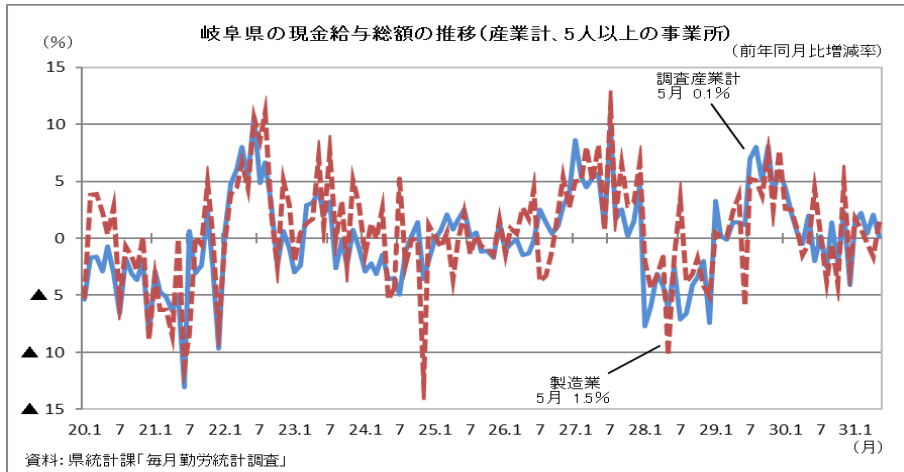
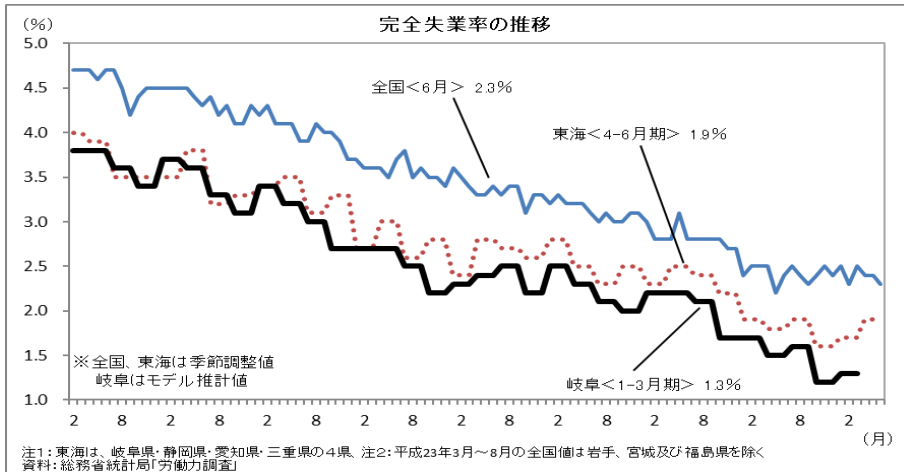
○岐阜県の平成31年3月末時点の高校卒業者(平成31年3月卒業)就職内定率は99.7%であり、前年比▲0.2ポイントと低下した。

○全国の平成31年3月末時点の高校卒業者(平成31年3月卒業)就職内定率は99.4%であり、同0.1ポイント上昇した。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の6月の完全失業率は2.3%と前月比▲0.1ポイントと減少。岐阜県の1-3月期の平均は1.3%であり、前期比0.1ポイントと上昇。
- 5月の岐阜県現金給与総額は、全産業で前年同月比0.1%、製造業で同1.5%と増加。
- 5月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比▲0.7%、30人以上の事業所は同▲0.5%と減少。消費支出については同▲4.4%と、7ヶ月連続の減少となった。
- 5月の所定外労働時間数は前年同月比▲0.8%と減少した。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、主要産業の鉱工業生産指数で化学工業が大幅に低下したが、電気機械や金属製品等、上昇する産業も見られた。ヒアリングにおいては、自動車関連を中心に好調を示す声も聞かれたが、米中貿易摩擦や消費増税に加え、日韓問題等も相まって、先行きの見通せないとの声も聞こえる。
- 地場産業は、鉱工業生産指数で食料品やパルプ・紙等が前月比で低下したが、木材・木製品や家具等は上昇した。しかし、ヒアリングにおいては、原料価格の高騰等により、依然として厳しい状況にあることに加え、消費税後の冷え込みに対する懸念もある。
- 設備投資は、工作機械受注額については、国内向けは7ヶ月連続、海外向けは8ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、積極的な投資姿勢の企業もあれば、慎重な投資姿勢の企業も見られる。
- 個人消費は、小売店の販売額については、前月に引き続きドラッグストア等が牽引し、全体としては5ヶ月連続で前年同月を上回っている。小売店の中には、キャッシュレス化に対して積極的な姿勢の企業も見られる。
- 観光は、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回り、昨年リニューアルした施設での反動減や、団体旅行や東アジアからのインバウンドの減少といった声が聞かれた。
- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、米中貿易摩擦や消費増税等、様々な外部環境による企業への影響を注視している。
- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中で、一部企業には受注減を主因として、人手不足感が薄まってきてはいるとの声もあるが、全体的には依然として人手不足が慢性化した状態にある。